

# ■ 日漢協トピックス



## 「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2025フォーラム」開催

2026年3月2日(月)18時より、大手町三井ホール(千代田区)において「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2025フォーラム」が開催された。当日は、研究会メンバー、演者、オブザーバーをはじめ、行政、関連団体、アカデミアならびに共催の日本東洋医学会および会員会社他、メディア関係など、総勢431名が参加した。



【会場の様子】

今回は、「時代変化・研究会成果を踏まえた提言の再構築」をテーマとし、社会環境の変化や新たな研究成果を踏まえ、研究会として5年ぶりの提言の再構築(更新)に向けた講演ならびにディスカッションが行われ、新たな提言が取りまとめられた。

まず、総合司会を務める本研究会代表世話人の鳥羽 研二先生(東京都健康長寿医療センター 名誉理事長)より、開会のご挨拶が行われた。鳥羽先生は挨拶の中で、「高齢化の進展とともに漢方に関する論文数も増加し、現在では約4万5千編に達している。しかしながら、依然として十分とは言えず、いかにしてエビデンスを蓄積し、国民医療に貢献していくかが今後の重要な課題である。ぜひ、本日のご講演をお聞きいただきたい」と述べられた。



総合司会  
【鳥羽 研二先生】

続いて、講演のセッションに移り、5名の先生方がご登壇された。  
各先生方のご講演の概要は以下の通りである。

## ■ 基調講演

座長: 秋下 雅弘先生

(東京都健康長寿医療センター 理事長 兼 センター長)



【秋下雅弘先生】

### ● 「保険診療における漢方薬の役割」

演者: 松本 吉郎先生 (公益社団法人 日本医師会 会長)

松本先生は、医療用漢方製剤が直面する課題として、原料植物の安定的な確保に加え、OTC類似薬を含む保険給付の在り方の見直しに言及された。特に後者については、「国民に安心・安全な医療を提供するためには、医療用漢方製剤等が適正な価格で医療保険制度のもとで処方されることが重要である」などの考えを示された。



【松本吉郎先生】

## ■ 講演

座長: 堀江 重郎先生

(順天堂大学大学院医学系研究科泌尿器外科学 教授)



【堀江重郎先生】

### ● 「高齢者のフレイル・ポリファーマシーと医療経済」

演者: 小川 純人先生 (東京大学大学院医学系研究科 老年病学 教授)

小川先生は、「超高齢化社会においてフレイル対策は重要な課題であり、漢方薬は多様な症状に対する有効性・安全性のエビデンスを背景に、西洋薬との併用によってフレイル患者の治療に貢献し、社会保障費抑制の可能性が示されている」などと解説された。



【小川 純人先生】

●「漢方薬のエビデンス(高齢者、がん支持療法、感染症、医療経済効果)と適正使用に関わる漢方医学教育について」

演者:高山 真先生

(東北大学病院 総合地域医療教育支援部・漢方内科 特命教授)

高山先生は講演の中で、高齢者医療、がん支持療法、感染症、医療経済効果の各領域におけるエビデンスを紹介し、医療用漢方製剤が国民の健康と医療にとって不可欠な存在であると強調された。さらに、その有用性を十分に発揮するために、医学教育によって培われた適正な漢方薬の使用が重要であると述べた。



【高山 真先生】

●「漢方薬をよりよく使うためのレギュラトリーサイエンス研究」

演者:伊藤 美千穂先生(国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長)

伊藤先生は、「医療用漢方製剤をより有効に活用するためには、使用実態を踏まえた改善が必要である。エキス顆粒は高齢者にとって服用しにくい等の課題などから、ゼリー剤や錠剤など服用しやすい剤形の追加・見直しが求められる。臨床現場に即した効能・効果の追加や表現の現代化も重要である」と指摘した。



【伊藤 美千穂先生】

●「保険適用漢方薬の継続の必要性」～患者、当事者視点から～

演者:増田 美加先生(NPO法人みんなの漢方 理事長)

増田先生は、「漢方薬の健康保険適用は、患者にとって不可欠である。特に、がん治療の副作用対策や、女性の月経やライフステージに伴う不調への対応で重要な役割を果たしており、保険適用が外れると使えない人が増える。国民の健康維持や女性活躍の観点から、漢方薬の保険診療の継続が求められている」となどと語った。



【増田 美加先生】

## ■ディスカッション【提言2.0についての委員からの意見】

講演終了後は、ディスカッションのパートに移り、登壇された先生方と研究会委員の先生方が一堂に会し、講演内容を踏まえた意見交換が行われた。最初に、世話人の合田 幸広先生（国立医薬品食品衛生研究所 名誉所長）進行のもと、ご講演内容について、各委員の先生方から、意見が発せられた。



【合田 幸広先生】



【田原 英一先生】

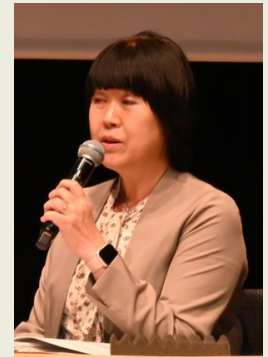
まず、田原 英一先生（日本東洋医学会 会長）より「今後、日本医師会と日本東洋医学会が連携し、種々のエビデンスを構築していけるとよい。

また、ICD-11等伝統医学の病態をベースとした分類を用いたエビデンスの構築・創出ができれば、より漢方の良さが証明できる」などの意見を述べられた。



【ディスカッションの様子】

次に、吉松 嘉代先生(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター センター長)が、「現在、大学や企業・自治体による生薬の国内栽培の取り組みを行っており、国内自給率は伸びているものの、種苗の安定確保や栽培従事者の高齢化といった課題により、依然として10%を割り込んでいる。栽培面積自体は増えているが、オタネニンジンのような、栽培に長期間を要する生薬は栽培面積に対する収穫面積が少なく実際には減っている、などの課題がある」と現状を説明された。



【吉松 嘉代先生】

続いて、東田 千尋先生(富山大学和漢医薬学総合研究所研究開発部門・病態制御分野・神経機能学領域 副所長・教授)は、「品質が担保されていることによって研究は着実に進展し、そこから得られるエビデンスは、国内外に再現性をもって発信し得る高いポテンシャルを有している。一方で、レギュレーションの整備を通じて剤型開発や効能追加を進めることが重要であり、こうした研究成果が診療ガイドラインに反映されるよう、継続的に取り組んでいく必要がある」と意見を示された。



【東田 千尋先生】

さらに、岩月 進先生(日本薬剤師会 会長)から、「医師と薬剤師の間で処方意図を共有する機会の確保が求められる。加えて、日常の投薬業務を通して、剤型開発の重要性を強く感じており、その推進を期待したい。医薬品へのアクセス向上のためにも、薬剤の安定供給に引き続き尽力いただきたい」と期待を述べた。



【岩月 進先生】

最後に、安川 健司先生（日本製薬団体連合会 会長）は、「医療のアクセスの良さや質の高さを保つ、でもコストは減らす」という理論では製薬会社は成り立たない。今の医療体制は、医療機関や製薬会社に大きな負担を強いていることを、アドボカシー活動として、国民に訴え、理解を得たうえで、その対策を国民的な議論として発展させる必要がある」と要望された。

その後、代表世話人の鳥羽 研二先生進行により、コロナ禍を経て社会課題も大きく変化してきたことや漢方薬の保険医療上の必要性について新たなエビデンスなどが構築されてきたことを踏まえ、提案された新たな提言に関して解説があった。これを受け、参加メンバーを中心に討議が行われた結果、当提言は研究会からの新たな提言として採択された。最後に、日本東洋医学会会長の田原 英一先生より閉会の挨拶が述べられ、フォーラムは盛況のうちに幕を閉じた。



【安川 健司先生】

## ■記者会見

フォーラム終了後、20時30分より報道関係者を対象に記者会見が行われ、鳥羽先生、合田先生をはじめ、世話人を含め5名、ならびにご講演された4名の先生方が参加された。記者の方々からは、「今回発出される『新提言』は今後どのように活用されるのか」「提言の再構築に至ったタイミングや思いについて教えてほしい」「剤型の変更についてはいつ頃実現するのか」などの質問が挙がり、関係する先生方が熱心に対応されていた。



【記者会見の様子】

# ■ 今回採択された研究会による新たな提言 ■

## 「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会」 提言2.0（骨子）

医療用漢方製剤等は、国民の健康と医療にとって今や不可欠な存在であり、今後も保険適用を堅持し、現代医療の中で漢方診療が実践できる日本の医療制度の特性を最大限に活かし、健康寿命の延伸をはじめとする社会課題の解決と保健衛生の向上に寄与していくことが重要である。

本提言の着実な実現を通じ、産官学が連携し、現代医療の中で漢方の価値を一層高めて行くことを期待する。

### 提言1 国民の健康と医療に必要不可欠な漢方薬の保険適用の堅持



#### ➤ 医療用漢方製剤等の保険適用を堅持する

具体的には、医療用漢方製剤は高齢者領域（フレイル、認知症）をはじめ、女性領域、がん領域（支持療法）、感染症など、健康寿命の延伸、保健衛生の向上に多大な貢献をしており、更なる研究も進んでいる。

### 提言2 安定供給と持続可能な薬価



- ① 医療用漢方製剤等は低薬価により安定供給に支障をきたす状態となっているため、薬価上の措置を求める
- ② 原料生薬の安定確保に向けた国内栽培を推進する
- ③ 製品および原料生薬の品質を確保するため、原料生薬供給国との連携を引き続き強化する

### 提言3 国民の健康福祉に資する研究の推進と制度改正



- ① 社会課題に即した領域・疾患へのエビデンス集積
- ② ポリファーマシーの視点を含めた安全性データの蓄積
- ③ 医療経済学的研究の推進
- ④ 診療ガイドライン掲載を通じた漢方診療の標準化
- ⑤ 漢方医学教育の推進（卒前・卒後・生涯教育）
- ⑥ 証の科学的解明（個別化医療）
- ⑦ より適正使用に資する効能効果の整備
- ⑧ よりコンパクトで服用しやすい漢方エキスのためのガイドライン整備
- ⑨ 産官学連携に基づく公的研究の推進（体制支援・研究費等）
- ⑩ 漢方製剤等のグローバル展開の推進

### 提言4 国民が求める漢方薬の情報発信



- 保険医療上の必要性に関する理解を広く啓発する
- 具体的には、社会課題や最新の研究成果を踏まえ、品質、有効性、安全性及び経済性に関する情報発信を強化する。